

令和6年度

<p>事業名 地域と学校の連携・協働推進セミナー</p>	
<p>期日 令和6年9月11日(水)</p>	
<p>参加者 124名</p>	
<p>趣旨 地域全体で子供達の成長を支え、地域づくり・人づくりを目的とした地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進するために、関係者の理解促進と連携の構築を図り、今後の取組の充実につなげる機会とする。</p>	
<p>活動の様子</p>	
<p>【説明】「本研修会の趣旨について」</p>	
<p>福岡県立社会教育総合センター社会教育主事 嶋本 光司</p>	
	<p>将来の予測が困難な時代が到来し、地域のつながりの希薄化など多くの課題が挙げられている今、なぜ地域と学校の連携・協働が必要なのか、子供たちの未来のために私たちにできることは何なのか、ともに考える研修であることを説明しました。また、本県の現状として、地域学校協働本部の整備等は進んできたものの、多くの方が「事業の理解不足」「他者との連携不足」等の課題を感じていることを示しました。</p> <p>参加者からは、「課題がわかった。」「講話につながった。」等の声が聞かれ、研修会の趣旨を捉えて、課題意識が高まった様子を伺うことができました。</p>
<p>【講話】「子どもたちの未来のために、今私たちにできること</p>	
<p>～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の理解と推進～</p>	
<p>文部科学省CSマイスター</p>	
<p>三鷹市教育委員会統括スクール・コミュニティ推進員 四柳 千夏子 氏</p>	
	<p>四柳先生は、三鷹市立学校 PTA 代表等を務められたのち、スクール・コミュニティ推進員として学校と地域に関わってこられた、保護者や地域の視点でお話くださる文部科学省CSマイスターです。</p> <p>本研修では、社会教育・学校教育関係の行政職員、学校の職員、地域学校協働活動推進員等に、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の基本的内容のお話や三鷹市等の事例・取組の紹介もしていただきました。また、「子どもの幸せ」「子どもが楽しく学校に通えること」のために、私たちが「何のためにするのか」を話して共有する大切さを、体験型のワークを取り入れながら、御講話いただきました。</p> <p>参加者からは、「難しい言葉ではなく、わかりやすい言葉でよく理解できた。」「大人がしっかりと話をしないとダメだと思った。」や「活動の励みになった。自分から動いてみようと思った。」等の声が聞かれ、参加者の一体的推進への理解の深まりと実践意欲の向上につながりました。</p>

【演習】「お悩みマッチング～せっかく篠栗来たんならヒントつかんで帰らん?～」

福岡県立社会教育総合センター社会教育主事 嶋本 光司



参加者が解決したい悩みや課題を解決するためのヒントをつかむとともに、エリアを超えたネットワークをつくることを目的として行いました。4つのテーマ「推進の第一歩」「人材確保・育成」「学校・地域保護者への周知・理解」「役割分担・体制の整備」の中から参加者自身が選択し、様々な方と主体的に情報交換ができるようにして行いました。



参加者からは、「同じ課題で話し合う企画が良かった。」「1人で悩むより多くの考えに触れる方が良い。」や「楽しかった。会話が大切だと実感した。」等の声が聞かれ、同じ悩みを持つ様々な方々との交流を通して、多様なアイデアを得たこと、つながりづくりまでできたこと、さらに、今後の推進への意欲につながったことの伺える演習になりました。

参加者の声

- ・参加してよかった。学びが多かった。
- ・多くの市町村から参加されていることに驚いた。
- ・講師の先生が教育関係出身でなく、どの立場の方にもわかりやすかった。
- ・文部科学省の話と三鷹市での実践の話が織り交ぜられており参考になった。
- ・学校と地域が「やってあげる関係」ではなく「責任を分かち合うパートナーとして協働する関係」として取り組みたい。
- ・本格的にコミュニティ・スクールを始動させたい気持ちになった。
- ・学んだことを取り入れて実践し、振り返り、積み重ねていくことが必要と思った。
- ・悩みを抱えている人が多い。本日のような交流を中心としたものがよい。
- ・構成がよかった。講話と演習の組合せでいろいろな視点を学べた。
- ・内容面だけでなく、(演習のマッチングの方法など)運営面でもとても勉強になった。

